

弦で聴きくらべ 鍵盤音楽の金字塔



J.S.バッハ:ゴルトベルク変奏曲



第1回マチネ 弦楽トリオ

10/4日 2:00pm開演
[1:30pm開場] ※途中休憩あり

PROGRAM

ベートーヴェン:
弦楽三重奏曲 op.9-2

クルターグ:
『Signs, Games and Messages』より抜粋

J.S.バッハ:
ゴルトベルク変奏曲
(シトコヴェツキー編曲)



チェロ

元バイエルン放送響首席
ウエハラシンヤン

ヴァイオリン

ミュンヘン・フィル第1首席
ジャン・リスボア

ヴァイオリン

ミュンヘン・フィル
第1コンサートマスター
青木尚佳

ミュンヘンの仲間たち

©wildundleise.de



第2回ソワレ ギターデュオ

10/4日 6:00pm開演
[5:30pm開場]

※公演時間:約70分/休憩なし

PROGRAM

J.S.バッハ:
ゴルトベルク変奏曲
(ガルシア&モリニエール編曲)



テイボー・ガルシア

アントワン・モリニエール

天才ギタリストが
盟友と奏でる双子ギター

©2025 Parlophone Records Ltd / Photographer: Simon Fowler

各回 A¥5,000 B¥4,000 (税込/全席指定)

お得な2公演通し券(A席のみ) ¥9,000

※通し券は、両公演同じお席でご鑑賞いただけます。

一般発売
5/17日

芸術文化センター
チケットオフィス

0798-68-0255
(10:00AM - 5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日)

芸術文化センター会員
先行予約受付開始

5/16土

インターネット予約

https://www.gcenter-hyogo.jp

※窓口での販売(残席がある場合)は5/19(火)より

※未就学児童はご入場いただけません。
※やむを得ない事情により、出演者・曲目等が変更となる
場合があります。あらかじめご了承ください。

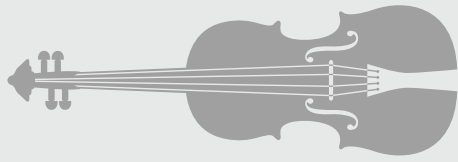


兵庫県立
芸術文化センター

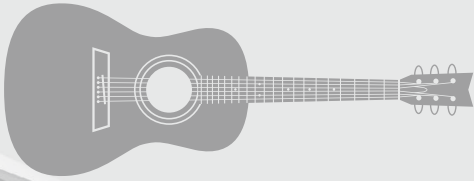


主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

J.S. BACH GOLDBERG VARIATIONS, BWV 988



弦楽器で奏でる、 鍵盤音楽の宇宙



一つのアリアから無限の宇宙を紡ぐ、バッハのゴルトベルク変奏曲。鍵盤奏者にとって、それは人生を賭して向き合う聖典。その特別な作品がいま、世界で活躍する弦楽奏者たちによって新たな響きで立ち上がります。

第1回のマチネ公演は、弦楽トリオ。ミュンヘン・フィル初の女性コンサートマスターとなった青木尚佳、同僚で首席ヴィオラ奏者のジャノ・リスボア、元バイエルン放送響首席チェロ奏者で指導者としても絶大な信頼を寄せられるウェン=シン・ヤンによる豪華共演。ミュンヘンのトップ奏者たちが織りなす、情熱と瑞々しさに満ちた響きをご堪能ください。

第2回のソワレ公演は、ギターデュオ。天才ギタリストとして旋風を巻き起こすティボー・ガルシアと長年の音楽パートナーであるアントワン・モリニエール。彼ら自身による編曲により、ギターの緻密な音世界に挑みます。来日公演では、同じ木から製作された「双子ギター」を使用予定。その豊かな響きを余すところなくお届けします。

弦楽トリオとギターデュオで描く、バッハの新しい響きの宇宙。2公演通し券もごさいます。秋の訪れとともに、唯一無二のひとつときを劇場でお過ごしください。

第1回マチネ 弦楽トリオ

2023年4月 神戸女学院小ホール公演



青木 尚佳 (ヴァイオリン) Naoka Aoki, violin

桐朋学園大学音楽学部ソリスト・ディプロマ・コースを経て、英国国立音楽大学、英国国立音楽院、ミュンヘン音楽大学で学ぶ。2014年、ロン・ティボー・クレスパン国際コンクール第2位及びモナコ大公アルベール2世賞を受賞。2021年、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに就任。前音楽監督ワレリー・ゲルギエフをはじめスーピン・メータ、アンドレアス・ネルソンス等世界的指揮者と共演。使用楽器は1717年製アントニオ・ストラディヴァリウス。

ジャノ・リスボア (ヴィオラ) Jano Lisboa, viola

リスボンのプレミオ・ジョヴェン・ムジコスのヴィオラ部門と室内楽部門で第1位、2009年ワトソン・フォーブス国際ヴィオラコンクール(スコットランド)で入賞し、2006年NECモーツァルト・コンチェルト・コンクール(米国ボストン)で優勝。ポルトガル功労市市民章を受章。現在、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団の第1首席ヴィオラ奏者を務める。

ウェン=シン・ヤン (チェロ) Wen-Sinn Yang, cello

「ウェン=シン・ヤンは非凡なソリストである。彼のテクニックは最高級で、美しい豊かな音と完璧な音調を奏でる。神経細やかに表現をし、音楽の哲学的な広がり完全に把握している。」(ロリン・マゼール) 1965年スイス生まれ。24歳にして、バイエルン放送交響楽団の首席チェロ奏者となり2004年まで在籍。1991年、難関と言われるジュネーブ国際音楽コンクールで優勝。指導者としても高い評判を得ており、2004年からはミュンヘン音楽大学の教授を務める。

ティボー・ガルシア (ギター) Thibaut Garcia, guitar

若干16歳でパリ国立高等音楽院に入学。16歳でドイツ・ワイマールのアナ・アマリア・国際ギター・コンクールで優勝、2015年難関の合衆国オクラホマ市のGFA国際コンクールで優勝。ワーナー・クラシック/エラートと録音の専属契約を結び、「Aranjuez / アランフェス」(2020)、またジャルスキーとの「À sa guitare / ギターに寄す」(2021)をリリース。最新アルバムは、アントワン・モリニエールとの双子ギターによる「ゴルトベルク変奏曲」(2025)。

アントワン・モリニエール (ギター) Antoine Morinière, guitar

スペイン国際セビリア・ギター・コンクール優勝、ウィーン・ギター・フォーラム国際コンクール優勝、アントニー国際ギター・コンクール優勝。ティボー・ガルシア、フィリップ・ベルノルド、ファトマ・サイドなどの卓越したアーティストと共演。また現代音楽に関心を持ち、渡邊理香子、レオ・ブローウェルなどの作曲家と共演。15年前ティボー・ガルシアとギターデュオを結成。二人はバッハ、クーブラン、ラモー、スカララッティのパロック音楽をレパートリーにしている。



第2回ソワレ ギターデュオ

©2025 Parlophone Records Ltd / Photographer: Simon Fowler



チェンバロで聴くゴルトベルク変奏曲

古楽鍵盤の名手 アンドレアス・シュタイアー

11/15 日

6月発売予定



神戸女学院小ホール